

きゅうりこれからの管理

3月に入ると日も長くなると共に外気温も高くなってきます。夜温が高くなるにつれ加温機の稼働時間も短くなり、ハウス内の多湿が続いてきます。換気の徹底を行っていきましょう。また、寒の戻しも十分考えられます。

【つる下ろし栽培について】

暖かくなるにつれ、力枝も伸びやすくなる環境になってきます。カンザシ対策を講じながら管理を行って下さい。必要とあれば2重ビニールによる遮光も行なって下さい。また、葉色が濃くツヤがない状態でのカンザシ症状が見られる場合には、液肥の量を減らすか水みの灌水にしましょう。

ハウス内が高温になってくるようであれば、サイド・妻面を開け換気を行っていきましょう。ただし、サイド換気につきましては一度に大きく換気を行うとベト病の発生につながりますので、徐々に開けていく様に心掛けて下さい。曇雨天時には循環扇や加温機送風を利用し換気を行っていきましょう。

【摘芯栽培について】

摘芯栽培につきましてもハウス内が高温になり過ぎないように換気の徹底を行っていきましょう。側枝の動きが悪く葉色が濃いようであれば、液肥の量は控えめにして下さい。

整枝作業につきましては、採光性を図るよう摘葉を行い、側枝の摘芯につきましては伸び急ぐ枝を中心に摘芯していきましょう。摘まずに実が肥大するような枝につきましては摘み急ぐ必要はありません。垂れている枝については引き上げていきましょう。

最低夜温が高いような日には2重被覆はせずに加温機を回していきましょう。

【灌水・液肥について】

日長が長くなるのとハウスの換気時間が長くなるにつれてハウス内は乾燥してきます。灌水の量は徐々に増やしていき、十分な水の量が確保できるようにしましょう。液肥の量につきましても、葉色の色又は芯の伸び具合を見ながら増減を行いきましょう。

今年の作については、成り込み後の成り疲れが極端に見られる傾向にあります。草勢維持対策は必須です。定期的な葉面散布と発根剤の使用を行って下さい。

葉面散布剤：パワフルグリーン・ベストII・メリット

発根剤：新RBパワー・夢 アミノ酸液肥：アミハート

【ハウスの環境整備】

3月の月上旬から外での害虫が増え始めてきます。ハウス外だけではなくハウス内につきましても除草対策を早めに行いましょう。

摘葉や摘芯された残渣はそのままハウス周辺に放置せず、残渣の上にはビニールにて被覆を行いきましょう。スリップスの発生が多い少ない関わらずに黄化えそ対策として行って下さい。

春先での改植に向けた、黄化えそ病対策

次の作へスリップスを越させないため、下記の事項を徹底しましょう。

- ①収穫終了前からのローテーション防除による密度軽減対策と、終了後の重点防除
- ②抜根後、14日程度の蒸し込みと、20日以上改植期間の徹底
- ③改植期間中の重点防除
- ④ハウス内外の除草対策
- ⑤定植前での粘着板の設置（最低100枚/10a以上）

果樹園の管理(3月)

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。3月の果樹園の管理は以下の通りです。

1.かんきつ類全般

1)剪定、縮間伐

収穫終了した樹から順次剪定を実施します。

- ・結果の多かった樹は軽めの剪定として、日当たりを考えた剪定とします。
- ・着果の少なかった樹は結果母枝が多く、その年は豊作型となりますので、若干結果母枝を切り返し、新梢の発生を図ります。
- ・計画密植で植えている園地では、縮間伐を実施しましょう。

2)樹勢回復

収穫の終了した園は、樹勢回復のため葉面散布を実施してください。

樹勢回復 尿素500倍又はパワフルグリーン2号 800倍
(1週間間隔で2～3回程度)

3)病虫害防除

12月～2月までに、樹勢が弱っていてハダニの防除ができなかった園地などは3月の発芽前までに必ず防除を実施しましょう。

2.日向夏の管理

1)収穫・出荷

- ・収穫、出荷については規格・基準を守って行って下さい。
- ・箱詰め要領等でご不明な点があれば、生産指導課(77-2216)までご連絡下さい。

2)病虫害防除

病虫害名	使用農薬名	使用倍数	収穫前使用日数	使用回数
貯蔵病害 青かび・白かび病	ベフラン液剤25	2000	前日まで	2回以内

※ 病虫害の発生があった場合は、生産指導課までご連絡下さい。

※ 農薬の使用については、使用基準（適用作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数、散布量等）を守って使用して下さい。

連絡先……生産指導課 電話 77-2216

露地野菜生産者のみなさまへ

寒暖の差が大きく、管理が難しい時期と思います。

白ごぼう、春人参、春バレイショ等の作付けがされていると思います。発芽～初期生育が菜種梅雨の曇雨天と重なる恐れがあります。排水溝や排水口を設置し、圃場から水が出るように対策を行って下さい。

秋まで休耕される圃場では、緑肥等の作付けを行い秋作への備えもよろしくお願ひします。

しばらくは寒暖の差が大きい時期が続きますので、体調に留意し管理・作業を行って下さい。

【今後の管理について】

・甘藷・



毎年、苗床でのアブラムシやハダニ等の発生が見られます。契約栽培では苗床での農薬の使用もできませんので、発生しないように予防策を十分行って下さい。すでに発生しているという苗床がありましたら担当までご連絡を下さい。対処方法について検討致します。

苗からの病虫害持込が圃場での発生原因になる場合もありますのでご注意下さい。

・バレイショ・



播種後の雨により種芋が腐敗することがあります。必ず排水溝や排水口を整備し、雨水を外に出すようにして下さい。

芽出しの遅れは芽焼けにつながります。芽焼けは霜焼けよりも被害が大きくなるので、芽出しの遅れには注意して下さい。

・里芋・



石川早生は2月中旬から遅くとも3月いっぱいまでに植え付けを終了して下さい。契約の場合は8月から出荷が始まりますので、寒さが続く場合は被覆等保温対策を行い生育の促進に努めて下さい。

種芋は大きいほど生育旺盛で収量が多くなりますので、なるべく大きなものを使用して下さい。

・人参・



契約栽培の春人参の播種は3月20日が限界です。向陽2号は播種から約120日で収穫適期を迎えます。遅霜により発芽不良や生育不良が発生する場合があります。パオパオの被覆等保温対策を行い、生育の安定を図り、良品の生産に努めましょう。

また、1月下旬～2月上旬のように暖かくなると草の発芽や生育が早まります。初期の除草は収量の安定と秀品率の向上につながると考えられますので、早めに行って下さい。

◎病虫害対策

ハウスやトンネル等、暖かい場所では害虫の発生が見られます。気温も徐々に上がり、外でも害虫の動きが活発になります。作付け終了後の残さや圃場周辺の雑草は害虫の発生源となりますので片付けや除草は早めに行いましょう。

- アブラムシ ……………シルバーテープの設置（光を反射する事で虫を寄せ付けない）

- ダニ・スリップス……………茎や葉に付きます。密度が少なく作物の草勢が良ければ、生育への影響は少ないですが、密度が増えると対処が困難になります。灌水（散水）ができる圃場であれば、灌水（散水）を行うのも抑制につながりますので、行って下さい。

- コナガ類 ……………粘着シートを使用し、誘引捕殺して下さい。作物に近い位置に設置すると効果的です。

- ◎春の作付けをしない圃場は、土壌病害虫対策や地力回復のため緑肥作物の作付け・すき込みを行い、秋の作付けに備えて下さい。また、土壌分析を行うことをお勧めします。
土壌分析を行う事で土の状態が分かり、元肥施用の参考にもできます。土壌分析は土を乾燥させた後、分析します。提出された土の状態によっては、2週間程かかる場合もありますので早めの提出をお願いします。提出先は生産指導課又は開発センターまでお願いします。

- ◎作付けを行うにあたり、生産販売契約書に記載されているもの、または栽培計画の中に記載されている資材については、有機JAS認定の基準に適合しているかの確認を行っていますので、それ以外の資材を使用する場合は資料の提出をお願い致します。

- ◎出荷前に栽培管理記録簿の提出をお願いしていますが、産直・直売所に出荷を行う方は販売・生産指導課まで提出をお願い致します。
開発センターへ直接提出を行うと管理内容の点検が出来ませんので、必ず生産指導課に提出を行って下さい。

栽培管理記録簿は、出荷前に栽培内容を確認する必要がありますので、必ず出荷前に提出をお願いします。

<お知らせ>

これからの作付け検討会開催予定品目：白ねぎ